

セッション3 コーディネーターからの質問

【石川地区】

○質問：具体的にはどのような活動を考えているか。

- ・ふれあい農園をやりたい人がいる。年配者や若い人が交流できる組織ができればいい。また、若い人には地区を知らないなので、一緒に勉強することを考えている。

【山島地区】

○質問：活動実態調査はどのように活用するのか。

- ・例えばグラウンドゴルフは地区内の各種団体で行っているので、一緒に開催することを検討している。

【千代野地区】

○質問：中学生以上全住民アンケート調査は誰の発案なのか。

- ・副会長の提案であり、各世帯へのアンケートでは男性の高齢者しか回答しないので、中学生以上の全住民を対象にすべきということだった。

【蝶屋地区】

○質問：地区カルテはどのように作成したのか。

- ・団体に記入してもらい、事務局が整理した。
(作野：この作業をいろいろな人たちが関わり楽しみながらまとめると、住民の問題意識の醸成につながる。)

【館畑地区】

○質問：令和3年度の防災の啓蒙とまち歩きはどのように開催するのか。

- ・令和3年度は準備会として関わっていく。

【白峰地区】

○質問：NPO まちづくり協議会の活動を見直すのか。

- ・そのようなことは考えている。地域の人口が減ってくる中で事業の選択も視野にいれたい。

【作野教授】

- ・モデル地区に共通している課題は、住民の理解と情報発信、活動の主体である。住民理解としては、具体的に活動することで理解を得ていく。情報発信は、アンケートやフェイスブック、SNS を使っていく。活動主体について、もっとも論点が大きく、物理的につながりを創っていく。コロナでマイナスがあるが、リモートや関係人口という地域外の関わりをもつことである。課題解決の糸口が見えた。